



2018年2月2日 ワークショップ「地震予測の現状と防災情報を生かすには」

パネルディスカッション

楠城 一嘉 | 静岡県立大学グローバル地域センター地震予知部門

(nanjo@u-shizuoka-ken.ac.jp)



進め方

- パネリストのご紹介
- パネルディスカッションの考え方
- 報告
- 議論
 - 地震予測の現状について
 - 防災情報を生かすことについて
 - 静岡の地震防災について
- まとめ

パネリストのご紹介

- 平田 直(東京大学地震研究所地震予知研究センター長・教授)
- 長尾年恭(東海大学海洋研究所長・教授)
- 関谷直也(東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター特任准教授)
- 岩田孝仁(静岡大学防災総合センター長・教授)
- 外岡達朗(静岡県危機管理監)
- 田宮 健(静岡広野病院長)
- 池谷千尋(池ちゃん家・ドリームケア代表取締役)

パネルディスカッションの考え方

- 県や国の防災対応の検討が始まり、又、各主体も防災対応の検討も今後開始されるだろう。この状況を踏まえると、「防災対応を検討するにあたり、どんな議論を今後深めなくてはいけないか」と言った、課題の洗い出しが重要となるだろう。
- パネルディスカッションでは、その課題の洗い出しと、なぜそのように考えるか、実務者、行政者、研究者の立場から意見を交わす。我々だから挙げられる課題を重視したい。

報告

- 以下の3名の方にご報告をしていただきます。
 - 外岡達朗(静岡県危機管理監)
 - 田宮 健(静岡広野病院長)
 - 池谷千尋(池ちゃん家・ドリームケア代表取締役)

議論

- 不確実な予測とは
 - 観測網の充実が図られる南海トラフの次の課題は
- 防災情報を生かすことについて
 - コミュニティの中の情報伝達
 - 防災情報のあり方の検討の活発化
 - 介助が必要な方々の早期避難の考え方
 - 地元大学の役割
- 静岡の地震防災について
 - 防災対応の考え方：ハード面・ソフト面・モデル地区
 - 現場で今後議論になると思われる課題
 - 防災拠点(津波避難ビルなど)の役割
 - 過去の地震(東日本大震災、熊本地震など)から学ぶ